

# 第1学年 外国語学習指導案

## 1 単元名

Unit 4 Friends in New Zealand (NEW HORIZON English Course 1)

## 2 単元について

### ○教材観

本単元では、教科書に登場するキャラクターである中学生たちが、授業でインターネット電話を通して、ニュージーランドの姉妹校の生徒と話すことになったというストーリーである。インターネット電話を通じた対話から、キャラクターたちは、日本とニュージーランドの時差や気候の違いを知るという設定になっている。その他にも、日本人のキャラクターである朝美や海斗が、ニュージーランドの姉妹校の生徒であるデイビットやエマとの対話を通じて、ニュージーランドの学校には2時間目のあとに“モーニングティー”という休憩時間があることを知ったり、ニュージーランドの国鳥がキウイという鳥であることや、ネットボールというスポーツがニュージーランドにあることを知ったりするなど、外国の生徒とのやり取りを通じて、外国と日本の違いを学ぶという内容となっている。

### ○生徒観

### ○指導観

本単元での新出文法は、命令文と疑問詞の what + 名詞(例: what time / what animals / what sport など)を用いた疑問文とそれに対する受け答えである。疑問詞を使わない疑問文を用いて相手に尋ねる表現や、それに対する受け答えの表現は、既に小学校で学習している。それゆえ、教科書の Unit 1 の新出文法を学習する際は、生徒たちも授業中の活動の中で、小学校で学習した表現は躊躇することなく、スムーズに使うことができている。そこで、既に Unit 1 の学習の段階で、小学校の学習にプラスアルファして疑問詞 what + 名詞を用いた疑問文を使用する言語活動を行っている。本単元では、新出文法を用いた言語活動等に特化するというよりは、本単元までに学習した語句や表現等を用い、目的・場面・状況に応じたやり取りができる言語活動を行わせたい。

また、教科書本文の内容が、日本在住である教科書のキャラクターたちが、インターネット電話を通じて、姉妹校の生徒と対話する中で、相手の国の気候や風習などを知るというものになっているため、単元末の活動には、それに近い内容のものを設定したい。

### 3 教科研究との関わり

#### (1)「主体性」を持って学ばせるための工夫について

「主体的な学びのプロセスモデル」を、生徒自らが活用できるよう、単元全体および、一時間の授業の中で実践する。さらに、学習者である生徒自身が「主体的な学びのプロセスモデル」の有用性に気づき、それを活用して学習を進めることができるよう、各学習過程における「学習方略」をスキルとして身につけさせることを意識する。パフォーマンス課題については、ルーブリックを示すことで、具体的なゴールへのイメージを持たせ、見通しを持って学習に取り組めるようにする。また、実生活に即した課題(活動)となるよう、現実的な内容を考えられるトピックを設定し、課題を自分事または現実的なこととして考えられるようにする。それによって、生徒自身が課題解決に向けて自己調整をしながら粘り強く学習し、資質・能力を高めることができるようにする。

#### (2)「創造性」を発揮させるための学習活動の工夫

「創造性」を発揮させるために、指導者である教師が、既習事項を新たな学習へと繋げることを意識したい。そのために、重要となるのが、発問やデモンストレーション、インタラクションなどであると考え。言語活動の前などで、教師が表現の例を示すなどして、既習事項を現在学習していることと結びつけたり、現在学習している内容の中で既習事項を生徒自身が活かしたりできるようにしたい。

また、言語活動の途中に、中間指導を入れるなどして、生徒の使用していた表現の中で、他の生徒でも活かすことができそうな表現や、工夫が必要な表現を取り上げて、全体で共有することによって、一人の生徒自身の中で外国語の表現の幅が広がることを目標として指導を行いたい。

### 4 CAN-DO リストの形での学習到達目標(第1学年)

山梨大学教育学部附属中学校版 CAN-DO リスト(新学習指導要領対応)との関連

	話すこと(やり取り)
1年生	○自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。

### 5 単元の目標

外国人が多く来日する今日、互いが理解し合い、尊重し合って共存していくために、日本にいる外国人の母国の文化や風習、生活スタイル等を知るべく、まずは身近なALTに、自国の文化や風習、生活スタイル等について、教科書本文の中に使用されていた語句や表現を用いて尋ねたり、尋ねられたことに対して答えたりすることができる。

## 6 言語材料

### ○表現

Come to the front. / Be brave. / Don't worry. [命令文]

What time is it? / What time do you have lunch?

What animals can we see in New Zealand? / What sports do you like? [疑問詞 what + 名詞 の疑問文]

### ○語彙

front / nervous / worry / yourself / enjoy yourself / a.m. / p.m. / now / noon / break / after / period / some / or / during / o'clock / kiwi / right / round / like / national / mean / netball

## 7 単元の評価規準

	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
話すこと(やり取り)	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の文法事項と、疑問詞 what + 名詞を使った疑問文について、活用するための表現を理解している。</li> <li>外国の風習、文化、生活スタイル等について、疑問詞 what + 名詞の疑問文を用いて正確に話す(やり取りする)技能を身に付けている。</li> </ul>	<p>外国人が多く来日する今日、互いが理解し合い、尊重し合って共存していくために、日本にいる外国人の母国の文化や風習、生活スタイル等を知るべく、教科書のキャラクターと、その姉妹校の生徒とがやり取りをする英文を読み、それらを基に、読んだ英文の中に使用されていた語句や表現を引用するなどして、自分たち自身が尋ね合ったり、ALT と尋ね合ったりするなどのやり取りをすることができる。</p>	<p>外国人が多く来日する今日、互いが理解し合い、尊重し合って共存していくために、日本にいる外国人の母国の文化や風習、生活スタイル等を知るべく、教科書のキャラクターと、その姉妹校の生徒とがやり取りをする英文を読み、それらを基に、読んだ英文の中に使用されていた語句や表現を引用するなどして、自分たち自身が尋ね合ったり、ALT と尋ね合ったりするなどのやり取りをしようとしている。</p>

## 8 単元の指導と評価の計画(全8時間)

時間	○目標 ・主な学習(言語)活動	主体的な学習のプロセスモデル	評価			
			知	思	主	評価規準(評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の目標を生徒と共有する</li> <li>○教科書本文を読み、内容を理解し、教科書のキャラクターになりきり、やり取りをすることができる</li> <li>・単元末のパフォーマンス課題の内容や評価基準について理解する</li> <li>・教科書本文の音読活動</li> <li>・教科書のキャラクターを役として割り振り、</li> </ul>	<p>目標設定 方略計画</p>				<p>ワークシートの記述点検 ※記録に残す評価は行わない。</p>

	インタラクシオン行う。				
2	○命令文について、意味や形式を理解し、運用することができる。 ・命令文を用いた活動	方略計画 遂行 振り返り			ワークシートおよび振り返り欄の記述点検 ※記録に残す評価は行わない。
3	○教科書本文を読み、内容を理解し、教科書のキャラクターになりきり、やり取りをすることができる ・教科書本文の音読活動 ・教科書のキャラクターを役として割り振り、インタラクシオン行う。	方略計画 遂行 振り返り			ワークシートおよび振り返り欄の記述点検 ※記録に残す評価は行わない。
4 本時	○日本にいる外国人の母国の文化や風習、生活スタイル等を知るべく、ALT のクリス先生に母国の文化・風習・生活スタイルを尋ねるための練習をクラスメイトとする ・読んで理解したり、音読したりした本文を用いて、相手のことを尋ねたり、相手から尋ねられたことに対して、答える。	方略計画 遂行 振り返り			ワークシートおよび振り返り欄の記述点検 ※記録に残す評価は行わない。
5	○教科書本文を読み、内容を理解し、教科書のキャラクターになりきり、やり取りをすることができる ・教科書本文の音読活動 ・教科書のキャラクターを役として割り振り、インタラクシオン行う。	方略計画 遂行 振り返り			ワークシートの記述点検 行動観察 振り返りシートの記述点検
6	○日本にいる外国人の母国の文化や風習、生活スタイル等を知るべく、ALT のクリス先生に母国の文化・風習・生活スタイルを尋ねるための練習をクラスメイトとする ・読んで理解したり、音読したりした本文を用いて、相手のことを尋ねたり、相手から尋ねられたことに対して、答える。	方略計画 遂行 振り返り			ワークシートの記述点検 振り返りシートの記述点検 ※記録に残す評価は行わない。
7	パフォーマンステスト		○	○	○

パフォーマンステストについて

・パフォーマンステストの内容

昨今、日本には多くの外国人が来ます。その目的は、観光旅行はもちろん、仕事のために一人、あるいは家族で移住する外国人もいます。私たちの身近に外国人が住んでいるという状況も珍しくはないでしょう。外国人と共存していくために、違う国同士の文化や風習、生活スタイル等を理解し合うことは、大切なことの一つです。まずは、ALT のクリス先生にクリス先生自身の母国のことを尋ねたり、逆にクリス先生から尋ねられたことに対して答えたりしましょう。

・パフォーマンステストにおけるルーブリック(評価規準)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	文法・表現に誤りがなく、既習の語句や表現を用いてやり取りすることができている。	外国人が多く来日する今日、互いが理解し合い、尊重し合って共存していくために、ALT に対して、ALT の母国の文化や風習、生活スタイルなどを、既習の語句や表現を用いて尋ねたり、自分たちの国の文化・風習・生活スタイルなども併せて伝えたりすることができている。	外国人が多く来日する今日、互いが理解し合い、尊重し合って共存していくために、ALT に対して、ALT の母国の文化や風習、生活スタイルなどを、既習の語句や表現を用いて尋ねたり、自分たちの国の文化・風習・生活スタイルなども併せて伝えたりしようとしている。
b	文法・表現にやや誤りはあるが、既習の語句や表現を用いてやり取りすることができている。	外国人が多く来日する今日、互いが理解し合い、尊重し合って共存していくために、ALT に対して、ALT の母国の文化や風習、生活スタイルなどを、既習の語句や表現を用いて尋ねることができる。	外国人が多く来日する今日、互いが理解し合い、尊重し合って共存していくために、ALT に対して、ALT の母国の文化や風習、生活スタイルなどを、既習の語句や表現を用いて尋ねようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

パフォーマンステストにおける、具体的なイメージ(Bの姿)

A…ALT / S…生徒

S : Hi. How are you?

A : I'm good and you.

S : I'm fine. I want to know your country. [ I want to know about your country. ]

What time do you go to school?

A : Me or students?

S : Students.

A : Uh, students go to school about 9 a.m.

S : Do you have morning tea?

A : No, but we have snack time. We eat snacks.

S : What time do you eat lunch?

A : We eat lunch at noon.

9 本時の学習

(1)日時 7月5日(金)

(2)場所 1年4組教室

(3)目標

外国人が多く来日する今日、互いが理解し合い、尊重し合って共存していくために、日本にいる外国人の母国の文化や風習、生活スタイル等を知るべく、ALT のクリス先生に母国の文化・風習・生活スタイルを尋ねるための練習をクラスメイトとすることができる。

(4)展開

時間	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点
5分	○Greeting ・あいさつをする	・あいさつをする	
10分	○Warm-up ・前時の新出語句の再確認 ・教科書本文の音読 ・前時に行った活動の復習	・新出語句の提示 ・教科書本文の提示	・前時に行った活動の復習を通じて、本時の活動のウォーミングアップとなるよう意識させる。
30分	○本時の目標の確認	○本時の目標の提示	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【Today's Goal】</b> 外国の方の文化や風習、生活スタイル等を知るために、今日はクラスメイトと尋ね合う練習をしてみよう。</p> </div>		
30分	○Activity ①外国人に対して、どのようなことを尋ねれば、文化・風習・生活スタイル等について知ることができるか考える。 ②①で考えたことを英語でどのように表現するか確認する。 ③②で確認したことをペアで尋ね合う。	・生徒が考えたことを、全体で共有し、板書する。 ・必要があれば板書する。 ・机間巡視をし、生徒同士のやり取りを確認する。	
5分	○Reflection(Writing) ・ワークシートの Writing Activity のところに、活動の中で、自分が相手に尋ねたり、相手からの質問に答えたりした英語を書く。 ・英語で表現しなかったが、できなかったことは、日本語で振り返り欄に記入する。 ・全体での共有を行う。		・内容を確認すると同時に、正しく書けているかも確認する。

